

公式Instagramの
“中の人”に聞きました

多くの方に知ってほしいから

使命感を持って取り組んでいます



この人を知りました!

・Profile・
 原子力発電環境整備機構 (NUMO)
 広報部メディア広報グループ
川島 さくらさん
 大学卒業後、2021年4月入構。大学の研究室で地層処分についての学びを深めNUMOへ。現在は、担当業務だけでなく、構内のさまざまな広報活動に携わる。

高レベル放射性廃棄物の地層処分を使命とするNUMO(原子力発電環境整備機構)の川島さくらさん。私たちの世代で取り組むべき課題を周知するためキャラクターを使ったInstagramの投稿を企画した彼女に仕事に対する思いを聞きました。

かわいいキャラクターの投稿で幅広い世代に伝える

「もっと地球のことを知ってみたい」という思いで、大学では地球科学を専攻した川島さくらさん。大学の授業で原子力発電に伴い発生する高レベル放射性廃棄物の地層処分分の技術を学んだことが、NUMOに興味を持つきっかけとなった。

「誰もやり遂げていない事業に取り組み日本で唯の組織という点が魅力的でした。また、高レベル放射性廃棄物の処分は、原子力発電の電気を使っている私たちの世代が取り組むべき重要



季節ごとのイベントを楽しめるゲームの壁紙やカレンダーも保存できる。右の2次元コードから、NUMOの公式Instagramにアクセス!



若手職員3人が活躍できる職場環境
 2022年8月からInstagramの新シリーズ投稿をスタート。「皆さんにもぜひフォローしていただきたいです!」



投稿は全て手作り!
 1カ月前から準備開始
 投稿は、NUMOを知るきっかけとなる重要な場。節度を保った“かわいさ”を追求しつつ、親しみを感じてもらえるよう工夫している。

な課題。事業に携わることで社会貢献ができると思っただけです」
 現在、入構2年目。広報部メディア広報グループに所属し、最近ではInstagram運用に力を入れる。若手女性職員3人でワーキンググループを立ち上げ、昨年夏から新シリーズを開始。

「処分事業を進めていくには、多くの方にこの課題を知ってもらうことが大切。難しいというイメージを持たれやすいので、Instagramユーザーに関心を持ってもらうために、NUMOの mascot キャラクター『グーモ』の活用を思いつきました」
 「処分事業を進めていくには、多くの方にこの課題を知ってもらうことが大切。難しいというイメージを持たれやすいので、Instagramユーザーに関心を持ってもらうために、NUMOの mascot キャラクター『グーモ』の活用を思いつきました」

「出前授業(コラム参照)で学生に地層処分についてお話しすることもありますが、大学の学びを活かせる場であるとともに、普段の業務では気づけない率直な意見を学生から聞けるので、とても貴重な機会です」
 若手職員にもさまざまな仕事を任せられる気風が、構内の活気につながっているNUMO。

対話型全国説明会



資源エネルギー庁と共に少人数での対話形式で、「地層処分」の仕組みや処分地の選定プロセスなどについて説明している。

体験しよう! 地層処分

ミニアター搭載の「ジオラボ号」や地層処分の緩衝材の素材「ペントナイト」を用いた実験など、地層処分を体験できるイベントを開催。

「こちらもCheck!」 全国各地で活動を続けるNUMO

「知りたい」をサポート

地層処分事業について理解を深めたいと考えている全国の方たちに向けて、勉強会や施設見学などの支援を行っている。

学校での出前授業

全国の小学校・中学校・高校・高専・大学で、高レベル放射性廃棄物の処分に関する授業などを支援している。

